東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2010年6月18日

親戚関係

ムスリムの皆様。崇高なるアッラーは、人間を社会的な存在として創造されました。私たちを取り囲んでいる環境の中で最も近いのは家族と親戚です。従ってイスラームにおいて大切に取り扱われている課題の一つは親戚関係を大切することです。そしてクルアーンやハディース（預言者の言行録）においてはこのことに関して重要な警告と吉報があります。崇高なるアッラーは次のように仰せられています。「それで近親の者に、しかるべきものを与えよ。また貧者と旅人にも。それは、アッラーの慈顔を求める者たちにとり、最も善いことである。これらは、栄える者たちである」[1] さらに、婦人章の第**36**節において、次のように述べられています「アッラーに仕えなさい。何ものをもかれに併置してはならない。父母に懇切を尽くし、また近親や孤児、貧者や血縁のある隣人、血縁のない隣人、道づれの仲間や旅行者、およびあなたがたの右手が所有する者（に親切であれ）。アッラーは高慢な者、うぬぼれる者を御好みになられない」

ムスリムの皆様。偉大なるアッラーは、敬愛する預言者に布教の任務を与えたとき「まずあなたの近親者に警告しなさい」[2] と仰せられています。この節によって私たちに与えられている責任は明白です。どのムスリムも皆、まず近親者から始め、友人や親戚を時々訪問し、悩みなどを解決し、それを機会に善行に励み、悪事から遠ざかることを勧め、アッラーが禁止されたことや命令されたことを守ることへ招きます。

敬愛する預言者は（彼に平安あれ）多くのハディースにおいて私たちに重要なメッセージを与えています。例えば「親戚との関係を絶つものは天国に入れない」[3]. 「アッラーと来世を信じものは親戚の世話をするべきです」[4]. さらに「身内の貧困者を助けることは他人の貧しい人を助けることより二倍の報奨が与えられます。なぜならそれの一つは援助することの報奨で、もう一つは親戚の面倒を見ることの報奨だからです」[5]

サハーバ（教友）の一人が敬愛する預言者のところを訪れ、「アッラーの使徒よ、私に何かを教えてください、それを行うことによって天国に入り、地獄から身を守ります」と訊ねたとき、アッラーの使徒は「アッラーを崇拝し彼に何ものをも同等に配しないこと、礼拝を行うこと、喜捨を施すこと、友人そして親戚を訪問すること」[6]と述べられた。

兄弟姉妹の皆様。本日のホトバを、次の節で終えたいと思います。「人びとよ、あなたがたの主を畏れなさい。かれはひとつの魂からあなたがたを創り、またその魂から配偶者を創り、両人から、無数の男と女を増やし広められた方であられる。あなたがたはアッラーを畏れなさい。かれの御名においてお互いに頼みごとをする御方であられる。また近親の絆を（尊重しなさい）。本当にアッラーはあなたがたを絶えず見守られる」[7]

[1] 第30章, 38節.
[2]第26章, 214節.

[3] ブハーリー,エデブ, 11;ムスリム,ビッル, 18, 19.
[4] ブハーリー,エデブ, 85; ムスリム, イーマーン, 74, 75.
[5] ティリミズィ,ザカート, 26.
[6] イビンマージェ,ザカート, 28.
[7] 第4章,1節.